市政記者各位

令和８年６月１０日
経済観光文化局史跡整備活用課

鴻臚館 北館東門　瓦への記銘（きめい）を行います

福岡市では、国史跡鴻臚館跡の歴史的価値を次世代に継承するため、令和７年度より整備活用事業に着手し、北館東門や地形の復元を進めています。現在、北館東門の復元工事が進み、当時の姿が徐々に浮かび上がってきました。

このたび、東門復元工事に使用する瓦に、赤坂小学校の５・６年生に「鴻臚館」と記銘してもらい、あわせて現場見学を行うことになりました。鴻臚館の復元工事を間近で取材いただける機会となっておりますので、ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

概　要

日　　時：令和８年６月１２日（金）　雨天でも実施します。
１０時３０分～１２時１０分（予定）

※学校の都合により、日程が変更となる場合があります。
※５・６年生７クラスのうち、６年生１クラスの記銘について取材いただけます。上記日時以外での取材には対応できませんので、あらかじめご了承ください。

▲ 北館東門　完成イメージ

集合場所：鴻臚館跡工事範囲入口前（福岡市中央区城内）

内　　容：10：45～ 11：50　６年生による記銘と現場見学（約 32 名）
前半 40 分程度が記銘、後半に東門工事現場見学予定

【場所地図】

▲ 瓦の記銘　イメージ

≪ 参 考 資 料 ≫

鴻臚館
korokan

鴻臚館について

【国史跡 鴻臚館跡とは】

古代の迎賓館と称される鴻臚館は、現在の舞鶴公園内に所在した外交施設です。「遠の朝廷（とおのみかど)」とうたわれた大宰府の整備に続いて、外交・交易施設として設置されました。

「鴻臚館」とは平安時代の客館の名称で、設置当初は「筑紫館（つくしのむろつみ)」と呼ばれていましたが、のちに施設名称が唐風に改められ、鴻臚館となりました。日本には京都と大阪、福岡の三箇所に鴻臚館が設置されましたが、遺構として確認されているのは唯一福岡だけです。

鴻臚館は新しい文化や技術を日本で最初に受け入れる窓口であり、国家的な交易や国際交流が行われた場所で、当時の朝廷が設置したいわば「経済交流特区」でもありました。鴻臚館を擁する福岡の地には、それらを柔軟に受け入れる環境や気質が醸成され、脈々と受け継がれてきました。

現在の福岡は、当時の鴻臚館が果たした役割を受け継ぎ、「国家戦略特区」として都市の成長を加速させ、発展し続けています。

【北館東門について】

福岡の鴻臚館は、谷を挟んで南北の施設が併設されているのが特徴です。令和 7 年度より着手した鴻臚館整備・活用事業では、鴻臚館のシンボルとして多くの使節団や商人たちを迎え入れた北館東門と塀の一部を復元し、当時の「鴻臚北館」を整備します。北館東門は八脚門と呼ばれる型式で建てられ、日本に到着した人々が通る最初の門でした。

▲ 復元整備完成イメージ

【整備・活用事業のスケジュール】

現在進めている鴻臚館整備・活用事業の今後のスケジュールとして、鴻臚北館東門を令和 8 年 10 月に公開し、鴻臚館跡展示館を令和 9 年 3 月にリニューアルオープンする予定です。

今後のスケジュールの詳細につきましては、工事の進捗に合わせ、あらためてお知らせいたします。

経済観光文化局 文化財活用部 史跡整備活用課
担当：大塚・本田
TEL：092-711-4470（内線 4470）
E-Mail：shiseki.EPB@city.fukuoka.lg.jp

今年 10 月の鴻臚館東門の復元公開に向け、テレビ CM を放映します。CM 動画はこちらからご覧いただけます
→ https://youtu.be/6yrLG7Gx3yg